

2018年4月度 OUG ライフサイエンス分科会:業務に役立つ学習:学会・研究会・セミナー・講習会

セルの着色は重複を示す

名称	時期・頻度	費用・参加資格	内容(概要・得られる情報・参加メリット)	開催団体	案内通知と社内関係者連絡	社内フィードバック・情報共有方法
インフォプロ	毎年夏～冬	INFOSTA会員: 3,240円／一般: 4,320円／学生: 1,080円	ライフサイエンス、特許、図書館など関連のインフォプロが参加する。聴講者参加型のトーク&トークや講演会、各企業のプロダクトレビュー、懇親会がある。	情報科学技術協会 (INFOSTA)		主にサーチャーターにフィードバック。
INFOPRO	今年は7月	7000円(維持会員・特別会員の招待あり)	情報を専門的に扱う方による発表は先進的なものが多く勉強になる。	情報科学技術協会	会員向け通知、メールニュース、会誌「情報」の科学と技術の掲載	報告書の社内回覧 http://www.infosta.or.jp/symposium-top/
JHLA研修会	5月			日本病院ライブラリー協会	会員へメール通知	参加者から内容の報告。資料の共有。
JMLAコア研修会	8月	JMLA/JPLA会員: 5,000円 一般:15,000円		日本医学図書館協会	会員へメール通知	参加者から内容の報告。資料の共有。
JNLA協会研修会	8月			日本看護図書館協会	会員へメール通知	参加者から内容の報告。資料の共有。
日本薬学図書館協議会研究集会	8月～9月。1回 全国的な研究集会がある。	日本薬学図書館協議会会員、 日本医学図書館協会会員: 5,000円 上記会員以外の方:6,000円	薬学系大学や製薬企業の図書館(図書室)が中心。個人会員も有り。研究集会は事例紹介やグループ討議があり、同じような業務をしている人と情報交換が出来る。研究集会や年会では、知りたい情報の講演や発表があったりする。	日本薬学図書館協議会(雑誌「薬学図書館」発行)	会員登録の担当者宛に通知。会員メーリングリストでの案内もあり。	報告書を関連部門に回覧する、社内で共有すべき内容はチーム会などで共有する。
日本医療情報学会春季学術大会	6月の3日間	会員6,000円、 非会員6,500円	医療情報学全般の学術研究、EBM、医学医療分野のコンピュータ活用などの最新知識と情報を得られる	日本医療情報学会	前回参加者宛の案内メール、会員メーリングリストでの案内、その他	個別案件があれば紹介
医療情報学連合大会(日本医療情報学会学術大会)	11月の4日間	会員12,000円、 非会員16,000円	医療情報学全般の学術研究、EBM、医学医療分野のコンピュータ活用などの最新情報を得られる。厚労省・通産省との産学共同セッション有り	日本医療情報学会他	前回参加者宛の案内メール、会員メーリングリストでの案内、その他	個別案件があれば紹介
日本医薬品情報学会学術大会	毎年春～夏	不明	医薬品情報を適切に医療関係者に伝えるために必要な、各種資料などの最新の知見について。	日本医薬品情報学会 (JASDI)	不明	サーチャーターの他、資材作成部門とも共有する。
日本薬剤疫学会シンポジウム	不定期	無料、有料	安全性監視に関するシンポジウムや薬剤疫学の基礎講座がある。	日本薬剤疫学会		部内にフィードバック。

2018年4月度 OUG ライフサイエンス分科会:業務に役立つ学習:学会・研究会・セミナー・講習会

セルの着色は重複を示す

名称	時期・頻度	費用・参加資格	内容(概要・得られる情報・参加メリット)	開催団体	案内通知と社内関係者連絡	社内フィードバック・情報共有方法
医学情報サービス研究大会	7月～8月の土曜・日曜の2日間開催	参加資格なし。 一般4千円	医学情報を提供している方によるさまざまな発表、利用者サービスからコンテンツ評価・分析、自己啓発など。医学部図書館、病院図書館、公共図書館からの参加が多い。 実際に医療に携わる方に近い人たちによる情報サービスに対する考え方や評価などを知ることができる。患者サービスの実態にも触れられる。 展示会場には多数の出版社・ベンダーの参加があり会の雰囲気のおかげか、気軽な雰囲気でお話がしやすい。	医学図書館協会・日本薬学図書館協議会	過去の参加者にはハガキ通知あり、雑誌「医学図書館」「薬学図書館」の告知など。	報告書の社内回覧 http://mis.umin.jp/
メディアドクター研究会	隔月、土曜午後開催	1000円程度(資料代として)	話題の医療トピックスのニュース記事を取り上げて記事の内容が一般向けとして適切なものか、過不足をディスカッションして伝え方について考える。医療情報に携わる方、新聞社、図書館、ライター、自治体、ボランティア団体など各方面からの参加があり、違った視点からの考察や議論ができる。	メディアドクター研究会	Web案内	http://mediadoctor.jp/menu/nextmeeting.html
EBM関連イベント			医療機関向けのイベントが多いですが、以前は製薬メーカーも歓迎してくれました。EBMの医療現場での活用例の実際や検索方法などを知る良い機会だと思います。主催者に確認の上、参加してみたいかがでしょうか。		HP	http://spell.umin.jp/EBM_event.htm#170910
Guidelines International Network (GIN) conference	ヨーロッパ・北米・その他、3年ごとの持ち回り、時期未定、4日間	約10万円 (Consumerは6-7万円)	世界中の診療ガイドライン開発状況、開発手法の研究などを知ることが出来る	Guidelines International Network (GIN)	過去参加者宛の案内メール	個別案件があれば紹介。帰国後、発表後、報告。
Cochrane Colloquium	各国持ち回り。9月頃開催、3日間	約10万円 (Consumerは6-7万円)	コクランレビュー、システマティックレビューに関する研究会。世界中のコクランセンターなどの連絡会。他国の状況把握、手法などに関する研究開発最新情報を知ることが出来る	Cochrane	過去参加者宛の案内メール	帰国後報告会

2018年4月度 OUG ライフサイエンス分科会:業務に役立つ学習:学会・研究会・セミナー・講習会

セルの着色は重複を示す

名称	時期・頻度	費用・参加資格	内容(概要・得られる情報・参加メリット)	開催団体	案内通知と社内関係者連絡	社内フィードバック・情報共有方法
Grobal Evidence Summit	EBM関連組織の合同Conference。2017に初開催。3-4年毎の定期開催を検討	約10万円 (Consumerは6-7万円)	コクランレビュー、システマティックレビュー、診療ガイドライン開発、広くEBMに関する研究会。	Cochrane, Campbell, GIN, ISEH, JBI		
コクランジャパン各種セミナー	不定期	無料、有料	コクランライブラリについての知識の他、EBM全体の最新知見。	コクランジャパン	会員メーリングリストでの案内。	サーチャーの他、EBM支援業務担当者とも共有する。
MINDSセミナー、MINDSフォーラム	随時	無料		日本医療機能評価機構 MINDS	過去参加者宛の案内メール	
化学情報協会各種セミナー、ユーザー会			日本のベンダーの中で定期的かつ本格的にデータベース研修会をしているのは、今では本団体のみではないでしょうか。 有料講習会はもちろん、ユーザー会などの無料講習会は、新規情報の入手や検索テクニック向上に役立ちます。理論だけでなく検索事例が多く紹介されるので実務面でとても有益です。	化学情報協会	HP	https://www.iaici.or.jp/
PubMed実践セミナー(初級、アドバンスコース)	不定期	有料	PubMedを実習を交えながら体験できる。	日本メディカルライター協会(JMCA)		
安全管理・調査(PV)エキスパート研修会 薬害教育エキスパート研修講座	安全管理: 毎年春~夏 薬害教育: 毎年秋	有料	安全性に関する基礎が包括的に学べる。	(一財)医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	会員メーリングリストでの案内。	毎年新人を派遣し、参加しなかった新人にフィードバック。
J-CLEARセミナー	不定期	有料	過去には臨床統計の読み方等の講習会をやっていたこともある。	J-CLEAR 臨床研究適正評価教育機構		部内にフィードバック。
SLA		主に会員向け・有料	・Webinar(Webを使ったオンラインラーニング) / ・Certificate Program(ナリッジマネジメント、などコースをオンラインで受けることにより認定証を取得できるもの) / ・会誌Information Outlook(インフォプロ)に必要な特集記事掲載	SLA		https://www.sla.org/

2018年4月度 OUG ライフサイエンス分科会:業務に役立つ学習:学会・研究会・セミナー・講習会

セルの着色は重複を示す

名称	時期・頻度	費用・参加資格	内容(概要・得られる情報・参加メリット)	開催団体	案内通知と社内関係者連絡	社内フィードバック・情報共有方法
(セミナーではありませんが)雑誌「情報の科学と技術」	毎月発行	会員向け配付。購読もある	毎号、特集記事や連載があり、別分野の情報専門家の論考などが読める。	情報科学技術協会		
(セミナーではありませんが)雑誌「オンライン検索」	季刊	購読(年間1万円)	データベース紹介、MESH改定解説などがある	日本端末検索研究会		
(セミナーではありませんが)雑誌「薬学図書館」	季刊	会員向け配付	研修会の報告や外部セミナーの記録などもある	日本薬学図書館協議会		
(セミナーではありませんが)雑誌「医学図書館」	季刊	会員向け配付のほか購読(8千円)もある	医学図書館や病院図書館で医学薬学看護学情報を扱う方による情報の評価や図書館運営などの実務的な記事がある。東西南北のニュースコーナーも見落としていたニュースを知る機会となっている。	医学図書館協会		
JRRC著作権セミナー	年2, 3回(時期不明)	無料	著作権に関する知識	JRRC	関係部門へメールで連絡	報告書、社内で共有すべき内容はチーム会などで共有する。
①JRRC著作権セミナー ②企業・団体のための著作権講座	①年2回 ②年3回	事前申し込みが必要、無料	①毎回、講師に著作権における著名な専門家やテーマに関わる各分野のエキスパートを招き、最新動向の解説をはじめとする、著作権実務に携わる契約のニーズに合わせた旬な話題を取り上げています。②初級と中級があります。著作権について体系的に学ぶことができます。	公益社団法人日本複製権センター	HP	https://jrcc.or.jp/
①ビジネス著作権検定 ②知的財産管理技能検定			検定試験をめざしてはいかがでしょうか。資格保持者は社内外で優遇されます。			https://www.sikaku.gr.jp/bc/ http://www.kentei-info-ip-edu.org/
図書館総合展	毎年秋	招待券有り	図書館以外にも、電子書籍や印刷技術についての最新の知見。フォーラムの他、ブース展示やポスターセッションがある。	主催:図書館総合展運営委員会 企画・運営:カルチャー・ジャパン(JCC)	前年の参加企業などに連絡先を伝えておくと招待状が届く。	サーチャーの他、ハンドサーチャー部門などとも共有する。

2018年4月度 OUG ライフサイエンス分科会:業務に役立つ学習:学会・研究会・セミナー・講習会

セルの着色は重複を示す

名称	時期・頻度	費用・参加資格	内容(概要・得られる情報・参加メリット)	開催団体	案内通知と社内関係者連絡	社内フィードバック・情報共有方法
図書館総合展	11月(年1回)	無料	図書館関係の展示会:対象は公共、大学、専門の図書館。出店内容は設備、出版、図書管理システム、委託業務、データベース、電子リソースなど。フォーラムなども同時に開かれており、図書。情報学関係の情報収集の場となっている	図書館総合展運営委員会	メール、WEB、出店業者などからの案内など	報告書を関連部門に回覧する、パンフレット等も回覧する。社内で共有すべき内容はチーム会などで共有する。興味のあるものは業者にコンタクトをとり別途話を聞く。展示会で会った他社の方から情報を聞いて社内でフィードバックする事もある
JEPAセミナー	随時	無料の場合が多い。	電子書籍や出版の電子化などの話題が中心。電子化関連の動向を追える。	日本電子出版協会	会員へメール通知	参加者から内容の報告。資料の共有。
XSPAセミナー	随時	基本的に無料。	学術情報のXML(JATS)流通に関する話題が中心。JATS関連の最新情報が得られる。	学術情報XML推進協議会	会員へメール通知	参加者から内容の報告。資料の共有。
CS調査ブラッシュアップセミナー	年3回	8,000円	CS調査	日本能率協会	HP	http://jmar-im.com/information/event/?gclid=EAlaIQobChMIufixi_eu2gIVGwoqCh2PGgekEAAYASACEgI88_D BwE
ANA 教育・研修 接客 & マナー			接客	ANAビジネスソリューション	HP	https://www.abc.jp/service/anaken-shu/manner/
7つの習慣® SIGNATURE EDITION 4.0			【自己啓蒙】7つの習慣	Franklin Covey	HP	https://www.franklincovey.co.jp/training/s_7habits/
TA実践			【自己啓蒙】TA交流分析	日本交流分析協会	HP	https://www.i-taa.org/busi.html

2018年4月度 OUG ライフサイエンス分科会:業務に役立つ学習:学会・研究会・セミナー・講習会

セルの着色は重複を示す

名称	時期・頻度	費用・参加資格	内容(概要・得られる情報・参加メリット)	開催団体	案内通知と社内関係者連絡	社内フィードバック・情報共有方法
日本語教師養成講座			<p>420時間学習するので座学とある程度のコスト負担は覚悟する必要あり。メリットとしては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育理論や教育の実践面での知識とスキル(コミュニケーション、カリキュラム、教材準備、テストやデータの活用など)が身につく。 2. 日本語の文法、語彙、表現方法を改めて見直すことで、データベースに使用する検索語の選定、抽出、思いつきなどがより鋭く体系的になる。 3. 教育実習(外国人学生を相手に日本語による直接法で授業をする。)を通して学んだことは、データベース講習会に応用できる。 4. ボランティアをめざす人の集団なので、刺激されて気持ちや行動が前向きになる。 5. 仕事以外の専門を持つことで、気分転換と業務を見直すなど新しい発想が持てるようになる。退職後、即活躍する場を得ることができるなど 		HP	<p>早大 https://www.waseda.jp/fire/gsjal/open/lecture/ 拓殖大 http://www.takushoku-u.ac.jp/extension/japanese_teacher/ ヒューマンアカデミー http://haa.athuman.com/academy/japanese/ ☆検定試験もあります。 http://www.jees.or.jp/jltct/</p>
語学講座					HP	<p><英語> 慶應外語など http://www.fls.keio.ac.jp/ <英語以外> 東京外大など http://tufsoa.jp/</p>